

「ツバキごま」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



子どもは、草花や木の実を使った遊びが好きである。私も子どもの頃、ドングリやジュズの実を使って、よく遊んだ。ツバキの黒い種も遊びに使える。穴をあけて、中身

を楊枝や針でほじくり出して、「笛」を作るのだ。作るのも、音を出すのも難しい。その難しいのが面白くて、近所のオジサンの庭から、ツバキの種をたくさんもらってきて、友達と夢中になって遊んだものである。



「ツバキごま」 これはこまとして理想的な形状

コマ遊びをしていた子どもは、「ツバキごま」と名付けていた。私はこれまで、ツバキの果実に入っている黒いたね(種子)にしか、教材性を見いだせなかった。しかし、果皮でも遊べることを知って、ツバキの実の価値が、一気に二倍になった。



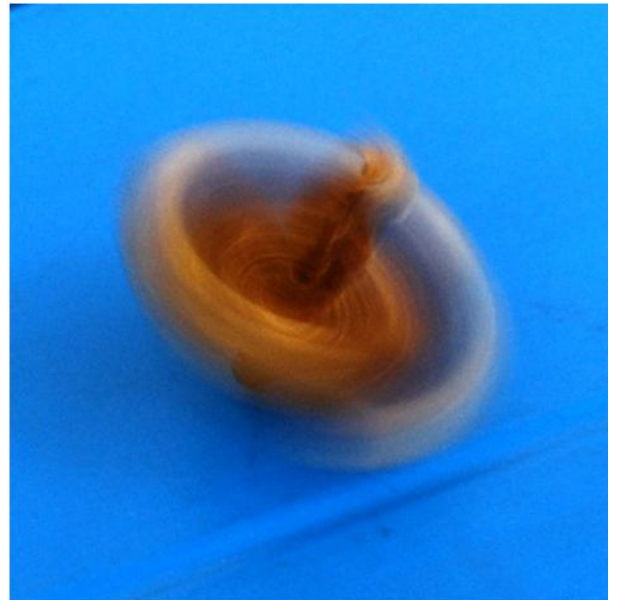
先日の休み時間、2年生の子どもが、教室のサークルベンチで、コマを回して遊んでいた。茶色い手作りのコマのようだ。クルクルとよく回り続けている。

「上手に作ったね、すごくよく回るね。」

「作ったんじゃないの。ツバキの実の皮なの。」

「えっ？ちょっと見せて、へえ〜！！」

私は、こんなものが、そのままコマになるのか！とすっかり感心してしまった。



どんな果皮でも回るわけではない。均等に展開し、コマの「脚」と「握り手」がしっかりしていないといけない。幸い、大学構内にはツバキの樹が多いので、今度子どもたちと「こま探し」に出かけてみようと思った。